



西側3階の男子トイレ。洗面コーナーと小便器のスペースの仕切りは、縦に水色のラインを入れ、ワンポイントに。

学校トイレの  
改修事例

05

東京都立川市

## 立川市立立川第二中学校

「教育環境の学校間格差の解消」  
全小中学校トイレの早期洋式化へ

3年後に洋式化率  
約100%を目指す

「生徒たちが改修されたトイレを最初に見たときに、『わー、洋式トイレがある！』『明るい！』と大歓声を上げるのを聞いてうれしかった。こんなにきれいにしてもらって、ありがたい」と目を細めるのは、立川第二中学校の常盤隆校長（取材時）です。

立川市では2014年から5年の計画を立てて、小中学校の大規模改修や中規模改修を劣化などを考慮し、順番に行い、その際トイレ改修も行ってきました。しかし、改修の順番が回ってこない学校も少なくありませんでした。立川第二中学校のトイレも同様で、「とにかくにおいを何とかしてほしい」という生徒や保護者からの声が後を絶ちませんでした。

教育委員会事務局教育部教育総務課長の庄司康洋さんは、2年前に現職に就きましたが、市内の小中学校のPTA役員との最初の懇談会で真っ先に聞いた

たのも、トイレ改修に関する要望でした。「子どもたちが、学校のトイレを使うのを嫌がっている」「各トイレに一つだけの洋式便器のブースにばかり集中してしまう」。

庄司さんが、市内の全部の小中学校を見ると、深刻な状況。「トイレ問題を早く解決しなくてはならない」と強く感じたそうです。

議会からもトイレ改修について要望が上がったこともあり、今後5年間の間に大規模改修や中規模改修の予定がない学校について、2017年からの3年間で和式便器の洋式化、小便器の交換、床の乾式化の改修を行うことになりました。計画通りに進めば、3年後の洋式化率については、現在の56%から100%近くになる見込みです。

「教育環境の学校間格差の解消に向けて、早くすべての学校の洋式化を進めたいです」（庄司さん）立川第二中は、2017年に中規模改修の順番が回ってきました。



横壁一面がアクセントカラーになった女子トイレのブース。床材を立ち上げ、掃除がしやすくなっている。



西側3階の女子トイレ。さりげなくクリーム色のラインが入り、真っ白な空間の清潔感がより際立っている。



西側の3階女子トイレの入り口



西側の3階男子トイレの入り口

ピクトサインと取手の色は男女各々のトイレに採用したアクセントカラーに。



女子トイレの洗面コーナー。水栓の取付面が汚れにくい壁付タイプの自動水栓を採用。

## 明るく清潔感あふれる トイレが完成

改修に当たっては、基本的に市内の他の中学校との差が出ないようにすること、きれいで清潔感があり、便器の数は極端に減らさないことなどを方針としました。

実際に出来上がったトイレは、白を基調とした明るい空間になっています。男子トイレは、壁掛け式で自動洗浄の小便器を採用し、掃除がしやすく、清潔性を保てるようになっています。手洗いは非接触の自動水栓を採用。衛生面や、節水性にも配慮しています。

## 現場をしっかりと見て、 学校の課題を見極めたい

学校側からは、来客が多く、特別支援学級もあることから、独立した多機能トイレを作ってほしいという要望がありました。これまでは、男女の各トイレ内に車いすで入れるトイレがあったただけでした。

既存のトイレではスペースがなかったため、1階の倉庫を広い多機能トイレスペースに改修。体の不自由な生徒だけでなくケガを



男子トイレのブース。ケガをした生徒が使いやすいように、一部には手すりをつけて。

した生徒も利用します。また十分なスペースを確保できたので、トイレの中で着替えができるよう、フイッティングボードを設置しました。

「中学生はケガをする子が本当に多いのですが、安心して使えるトイレがなかった。トイレは、特別な配慮が必要な子も含めて、誰もが安心して使える空間であることが大事。新しく作ってもらってみんな喜んでいきます」(常盤校長)

今回の改修事業を通して、庄司さんは、先生や生徒・児童の声を聴くことの重要性に気づかされたといいます。

「駅のトイレも公衆トイレもきれいになっているのに、学校だけが置き去りにされている現状がある。現場をしっかりと見て課題を見極める必要がある。その上で、市全体の課題として認識してもらえよう働きかけていく。教育委員会ができることはたくさんあります」



倉庫を多機能トイレのスペースに。広い空間を生かし、介助が必要な生徒の衣類の着脱にも使える多目的シートを設置。



1階西側。多機能トイレの新設に合わせて廊下からの段差をスロープに。



1階東側男子トイレ入口。特別支援教室が近いので、介助が必要な場合も使いやすいようにドアは引き戸に。



女子職員用トイレ。温水洗



男子職員用トイレ。小便器の下に汚垂れ石浄便座や手すりを設置。



北校舎東側1階特別支援教室近くの男子トイレ。①シャワーブースが設置されている。女子トイレも同様。②右側の扉が車いす使用者用トイレ。ドア枠や仕切り壁にも縦ラインのアクセント。③車いす使用者用トイレは介助がしやすいように広々とした空間を確保。

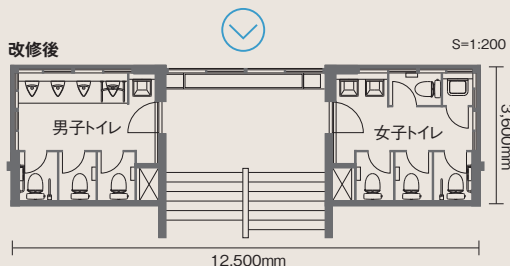
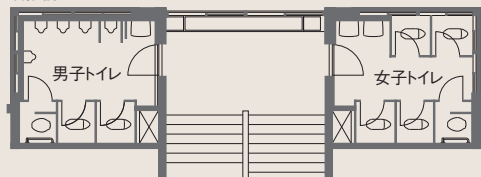


### DATA

- 名称：東京都立川市立立川第二中学校
- 所在地：東京都立川市曙町3-29-46
- 生徒数：552名(2018年4月)
- 施工主：立川市
- 設計：田中雅美建築設計事務所
- 施工：内山住宅(建築)、三和(機械設備)、澄川電設(電気設備)
- 竣工年月：2018年2月(改修)

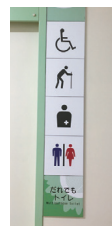


#### 改修前 北校舎西側3Fトイレ



既存便器の配置を活かし、必要器具数をレイアウト。この他、北校舎東側、南校舎トイレも改修された。

## 立川市立第六小学校



多機能トイレ(だれでもトイレ)を設置してバリアフリー化。

第六小学校は、2015年4月から翌年8月までの期間で大規模改修事業を実施しました。エレベーターが設置され、校舎各階の男子トイレ、女子トイレ内にはすべて車いす使用者用トイレが導入されました。1階には、「だれでもトイレ」も新設されました。